

平成30年度
学校関係者評価委員会報告書

菜園調理師専門学校

平成30年6月6日

学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 日時および場所

日時 平成30年5月16日(水) 午後2時～4時15分

場所 学校法人コアトレース 2階会議室

2 出席者

	氏名	所属	選出区分
学校関係者 評価委員	米田 勝彦	特別養護老人ホーム鶴亀ながい 副施設長	企業・ 業界団体
	伊藤 泰彦	盛岡大学附属高等学校 教諭	高校等 関係者
	狩野 美紀雄	盛岡ターミナルビル株式会社 ホテルメトロポリタン盛岡 料理長	企業・ 業界団体
	藤原 留美	菜園調理師専門学校 卒業生	卒業生
	山崎 聡	盛岡社会福祉専門学校 同窓会輝咲会会長 介護福祉科 卒業生	卒業生
学校関係者	久保 榮子	菜園調理師専門学校 校長 盛岡社会福祉専門学校 校長	
	谷地 康男	菜園調理師専門学校 副校長 盛岡社会福祉専門学校 副校長	
	小林 真巳	菜園調理師専門学校 教務主任	
	中村 将洋	盛岡社会福祉専門学校 教務主任	
	熊谷 英里	菜園調理師専門学校 教員	

3 議事次第

進行 副校長 谷地康男

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶 校長 久保榮子
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長選出

- (5) 自己点検・評価報告 副校長 谷地康男
- (6) 質疑
- (7) 閉会 副校長 谷地康男

4 議事録

(1) 開会

谷地副校長により開会が宣言された。

(2) 校長挨拶（要旨）

昨年度の学校関係者評価委員会の結果を踏まえ、平成 29 年度の教育活動を行ってきた。今回も、教育の質を高め、より良い学校づくりを行うためにも委員の皆様より忌憚のない意見をいただきたい。

職業実践専門課程の申請に必要な委員会であり、本会の審議内容ならびに委員の皆様の氏名、所属につきまして、ホームページ上および学園受付に印刷してものを設置し、情報公開することをご了承いただきたい。

(3) 委員紹介

学校関係者評価委員および学校関係者が、自己紹介を行った。

(4) 委員長選出

委員長に米田勝彦氏、副委員長に伊藤泰彦氏が推挙され、満場一致で承認された。

(5) 学校関係者評価委員会の概要説明

谷地副校長より学校関係者評価委員会の基本方針と位置づけについて説明がなされた。

(6) 自己点検・評価報告、質疑応答

平成 29 年度自己点検・評価について、谷地副校長、菜園調理師専門学校小林教務主任、盛岡社会福祉専門学校中村教務主任より資料に基づき報告があり、質疑に応答した。

① 基準1 教育理念・目的・育成人材像等について

・記載されている「入れる・育てる・送り出す」という言葉は、当たり前であるが、教育として重要なことである。（伊藤委員→調、介）

⇒教職員に資料や会議を通じて伝えるだけでなく、入学式や卒業式、スポーツ大会でも創設理念の言葉を引用し、学園全体で意思の統一を図っている。

② 基準2 学校運営について

・高校生と話すとき本学園との競合校を志望する生徒が多いと感じる。運営方針の中に「時代のニーズに応える」とあるが、どのようにしてニーズを捉えているのか。(伊藤委員→調、介)

⇒新たに教育推進室、情報管理室、コアトレース向上プロジェクト(CRP)を立ち上げ、時代のニーズの把握や周知するよう努めている。また学園内での連携を図るため、教務主任会議や広報会議、職員会議を定期的に行っている。

③ 基準3 教育活動について

・カリキュラムの中にある5コース制の充実とあるが、この中で学んだことが就職してから活かされる内容であると良いのではないかと。

(狩野委員→調)

⇒クラス全員では取り組むことが難しい内容を実施している。主に就職を意識した選択を行うが、給食分野への就職を希望している生徒が製菓を選択することもある。これにより、施設給食でのおやつ作りに役立っているようである。今後ご意見を参考に、内容を精査していきたい。

・授業評価で実施された生徒アンケートは、どのように活用されているのか。(山崎委員→調、介)

⇒生徒が求めているニーズを把握し、さらに教員の質を高められるように努めている。現在の評価は概ね良好であるが、常に教員間で意見交換を行っている。さらに各種研修会等に参加し、教員の資質向上を図っている。

・介護福祉科の謝恩会に出席したが、生徒主体で大変すばらしい会であった。2年間の教育の成果であると感じた。(米田委員→介)

⇒謝恩会は最後の教育の場と捉えている。学校での経験が社会で活かされるよう今後も継続していきたい。

・資格取得は、過去は多く取得できるほど良いとされてきたが、その傾向が変化してきているように感じている。現場からのご意見を頂きたい。(調、介→各委員)

⇒・職種によっては、厳選しても良いと思う。(米田委員)

・資格は取得したいが、勉強はしたくないという生徒の傾向がある。介護福祉士や調理師の資格以外は重視されていないのではないかと。(伊藤委員)

・資格があることは評価するにあたる。しかし取得のために努力をしたことのほうがより評価できることであるので、取得を勧めたい(狩

野委員)

・取得するために教員側に負担があるのであれば、厳選しても良い。

(山崎委員)

・生徒募集を考えると多く取得できることは魅力だと思うが、自身の経験からは、必要ないと感じている。(藤原委員)

⇒貴重な意見として、今後の教育活動に活かしていきたい。

④ 基準4 教育成果

・就職に関しては「正社員として就職率 100%」ということは素晴らしいことである。現場では盛岡社会福祉専門学校への信頼感があり、それが結果につながっている。(米田委員→介)

⇒26年連続100%を達成している。今後も継続していきたい。

・諦めが早い人が増えてきている。専門学校でも退学率の低減を図る努力が必要であると考え。(米田委員→調、介)

⇒例年1～2名の退学者がいる。担任を中心に面談を行い、保護者とも密に連絡をとって努力していきたい。

⑤ 基準5 生徒支援

・高校生や保護者は、学費が高くても進学を希望する場合がある。また日本学生支援機構の奨学金を借りる場合も、返金するところまで意識が向けられていないと感じる。学費や新設した奨学金制度をもっとアピールしたほうが良い。(伊藤委員→調)

⇒ご指摘の通り、学費に関して全てオープンにしているが、高校生へのアピールが十分にできているとは言えない。情報の発信方法を強化していきたい。

・健康管理のなかでもアレルギー対応の複雑さは現場でも感じている。学校でもアレルギーに対する理解を深めてほしい。(米田委員、藤原委員→調、介)

⇒アレルギーと食わず嫌いを混同しないように、慎重に対応を行っている。また4月より新たに相談室を設け、生徒の心のケアも行っている。

・卒業生への支援体制があることは、卒業生として心強いことである。今後も継続してほしい。(藤原委員→調)

⇒支援体制がまだ充分ではないが、時代のニーズに合わせてLINEなどのSNSを活用しているケースもある。ご意見のとおり、今後も指導を強化継続して行きたい。

⑥ 基準6 教育環境

・研修は海外にこだわることなく、国内でも十分な内容を実施できている。ここ数年実施していないのであれば、項目として見直してはどうか。(狩野委員→調)

⇒ご指摘の通り、項目の見直しを検討していきたい。

⑦ 基準7 生徒募集と受入

・菜園調理師専門学校の学費が安いことや、少人数であることは長所である。この長所をアピールしていくことが広報の課題ではないか。(藤原委員→調)

⇒ご意見を参考に、PR活動を進めていきたい。

・盛岡社会福祉専門学校で、志望者の希望に合わせて対応している姿を目の当たりにしたことがある。この「心をこめた対応」をもっと広めてほしい。(米田委員→介)

⇒学校に訪れたときの満足度は高いと感じている。校内で体験したことがいい口コミとして広まるようにしたい。

・AO入試を勧めていないが、その分他校に生徒を取られているのではないか。県外では特典をつけているようである。高校側としては、早期に進路が決定すると勉強をしなくなってしまうという懸念がある。(伊藤委員→調、介)

⇒岩手県専修学校各種学校連合会では協議が行われている。AO入試では特典はつけないという取り決めがある。本校では、ルールを厳守しながらも、ご意見を参考に有効な募集活動を検討していきたい。

⑧ 基準8 財務

・職員や業者に「学校債」を発行しているという話や、教職員のアイデアや教育内容に改革をおこし生徒増加した話もある。(伊藤委員→調、介)

⇒貴重なご意見として、参考にさせていただきたい。

⑨ 基準10 社会貢献

・災害ボランティアは、大変素晴らしい活動なので今後も是非継続してほしい。(米田委員→介)

⇒ボランティア活動は生徒の良い経験になっているので、貴重なご意見として今後の教育活動に活かしていきたい。

(7) 閉会 (要旨)

- ① 本委員会でいただいたご意見を参考に、今後の参考に活かしていきたい。
- ② 今後、本委員会は年 1 回を予定しているが、必要に応じては増える場合もあるので、その時にご協力をいただきたい。
- ③ 学校を理解していただくためにも、文化祭など学校の行事の案内も差し上げるので、その際にはぜひお立ち寄りいただき、生徒達の姿をみていただきたい。

以上